



2005年(平成17年)12月20日(火)

第5340号 (購読料金 月額税込み4,300円)



◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社  
電話 (03) 6800-1111◇郵便番号104-8178  
©時事通信社2005

## 病院改革と「見える化」

日経新聞十一月二十二日号に日経フォーラム「世界経営者会議」の特集記事が出ていた。そこでエルメス社のパトリック・トマ氏は自社の企業哲学の共有の必要性を述べていた。「<sup>すべて</sup>全てを変えろ。何も変えないために」というコピーを使ったことがあったが、それが企業戦略に大変価値があったと言っておられた。今の病院改革を推し進める上でよいヒントになった。現状を維持していくためには、積極的に過去を捨て、よいものを取り入れていかなければ、ただ朽ちていくだけである。病院改革に理事長として取り組んで十年が過ぎた。ほとんど改革に手つかずで十年が過ぎたといふべきかもしれない。「人の振り見て、わが振り

医療法人西浦会  
理事長 西浦信博



直せ」ということわざがある。当院のケースワーカーが機会があつて創立後かなりたつた病院を訪問して、報告書を提出した。いまだに「大部屋の畳の病室がありました」と驚いていた。全体の印象として「病院内の生活や取り組み、退院や社会復帰などに対する道筋が患者にも、病院外の人にも見えにくく感じました。これから病院に訪れようとしている人々や、病院の周辺に住む市民の方々にとつて、見えない病院は決してよくは思ってもらえないことを学びました。院長先生が『見える化』を重視していらつしやる理由が理解できたとおもいます」と書いています。

『仕組み』(東洋経済新報社 二〇〇五年十月発行)を読んで以来、機会があることに当院の職員に、病院という大きなフィールドの中で他の職場のスタッフが何をしているのかを見るようにしよう、現場で自分がどのように動いているかチームの他の人にも見えるようにしよう、さらに、精神科病院であるので、入院から退院、さらにはリハビリや社会資源の利用の仕方など、患者さんにも見えるようにしようと話してきた。そのために、年報を発行し、院内発表会をして、古いものを新しくする努力をしてきた。ホームページを通して、院内ヒヤリ・ハットの現状、職員の声、当院のCSRとか、接遇研修会報告などを読めるようになっていく。これらのことが、『見える化』を通して、当院が市民の社会資源として、役立つ一助となればと考えている。